

プノンペン都

コミュニティベースでの廃棄物管理改善

～ Boeung Trabek水路の取り組み事例 ～

第V章 草の根プロジェクト事業の定着化

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

4-1ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

4-2副知事の廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメント

高倉弘二 工学博士,技術士(衛生工学・環境)

北九州国際技術協力協会
高倉環境研究所

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント(2023年3月)

プノンペン都においては2018年以前(プロジェクト開始前)から、ごみ管理改善が喫緊の課題として認識されてはいたものの有効な施策を打てずにいました。これに対し、北九州市はプノンペン都との姉妹都市関係を活かして、JICA 草の根プロジェクト事業としてごみ管理改善を提案し、2019年1月からスタートしました。これを契機に5つのサンカットにまたがるトラベック水路沿いをモデル地域として、ごみ管理改善が着々と進行し劇的と言えるまでに改善がなされました。

当プロジェクトから得られた成果とごみ管理改善に向けたノウハウは、プノンペン都行政にとっても貴重な財産であり、様々な施策を実施してプノンペン都全域にごみ管理改善を広げることとしています。すなわち、ごみ管理改善がプノンペン都内で定着しようとしています。この定着化を確実にすることを後押しするために次の2点を考えました。

- ① ごみ管理改善イベント(5 サンカットによる一斉清掃)の実施
- ② 副知事の廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメント



プノンペン都

コミュニティベースでの廃棄物管理改善

～ Boeung Trabek水路の取り組み事例 ～

第V章 草の根プロジェクト事業の定着化

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

4-1ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

4-2副知事の廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメント

高倉弘二 工学博士,技術士(衛生工学・環境)

北九州国際技術協力協会
高倉環境研究所

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施：2023年3月26日

- 目的
- ・ アクションプランで未達であった「チャムカーモン区とボンケンコ区の合同清掃イベント」を実施し、まち美化に努めること。
 - ・ 「みんなの心がひとつになって、みんなの街をきれいにする」意識を醸成すること。

- ① BKK2・BKK3・BT・TTP1・PDTの各サンカットにおいて、住民による一斉清掃を日曜日の午前8時からスタートする。これはアクションプランのチャムカーモン区とボンケンコ区の合同清掃イベントに該当し、当プロジェクト終了時の成果として象徴的に実施する。
- ② ごみ管理改善には、「みんなの心がひとつになって、みんなの街をきれいにする」ことが必要である。この意識を醸し出すために、親子が、家庭が一緒になって参加し、また、隣人が一緒になって自宅周辺を清掃する。

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

実施に向けた準備

- BKK2・BKK3・BT・TTP1・PDTのサンカットを訪問し、一斉清掃の準備状況を確認するとともに、現状のサンカットのようすについて聞き取った。



サンカットでの準備状況の確認



フォーカルポイントから発言



フォーカルポイントから発言

- イベントの目的として、清掃活動による「まち美化」だけでなく、「みんなの心がひとつになる」ことも重要であることを住民に伝える。
- ごみ管理改善を成しえた要因として、行政・住民・ごみ収集運搬会社の連絡体制が構築され実行されていることにある。

4-1.ごみ管理改善イベントの実施 (2023年3月26日)

ごみ管理改善イベントの目的は二つあり、②を主目的とします。

- ① アクションプランで定めた「Ⅲ.水路の浚渫と清掃活動」のうち、チャムカーモン区とボンケンコ区の合同清掃イベントだけが未実施です。これについては、当プロジェクトの終了時の成果として象徴的に実施することにしました。
- ② ごみ管理改善には、「みんなの心がひとつになって、みんなの街をきれいにする」ことが必要です。この意識を醸し出すために、親子が、家庭が一緒になって参加し、また、隣人が一緒になって自宅周辺を清掃することにしました。

このような清掃イベントでは、自宅周辺の清掃ではなく、公園や河川などの特定の場所を設定し、人々が集まって清掃活動をすることが普通だと思います。カウンターパートからも河川敷で大規模に実施すべきとの意見もありました。しかし、私はこのような形にしてしまうと参加者を増やすための動員がかかり、半ば強制された参加になりがちだと考えています。ここでは②の「みんなの心がひとつになって、みんなの街をきれいにする」ことを大切にしたいのです。しかし、カウンターパートにこの考え方を丁寧に説明し理解を得てきたつもりですが、サンカット長はじめフォーカルポイントからは「拾うごみがない」との意見を伺います。そのため、準備状況の確認のために各サンカット訪れ、再度目的を説明するとともに住民へも伝えるようお願いしました。

そして、この考え方を取り入れた「プノンペン都ごみゼロの日」を世界環境デーに合わせ6月1日に設定することにしました。

また、サンカット長だけでなくフォーカルポイントからも、ごみ管理の現状等を聞き取りし、以下のような意見が出ました。

- ・ ごみの収集運搬は渋滞による遅れがない限りは時間通りに実施され、また、ごみ箱の設置と住民のごみ出しルールの遵守とが合わさった結果、街がきれいになっていった。
- ・ 環境エージェントはサンカット内を巡回しごみ管理の不具合点があれば報告したり、シントリ社に連絡を入れ、その対処を依頼している。
- ・ 昔と比較してごみ管理は確実に改善しているが、夜勤など夜に働く住民はごみ出し時間を守らない傾向にあり、これを是正するためにも住民への教育・啓発を継続する。
- ・ サンカット、住民、シントリ社の連絡体制が構築され、また、住民へも情報が伝達された結果が、今の状態へと変わっていった要因である。
- ・ 市民を巻き込んだ活動が重要であることを知ることができ良かった。
- ・ ごみを分別すること、ごみ出し時間を守ることで、エッチャイによる資源ごみ収集時のごみの散乱が少なくなっている。
- ・ プノンペン都の全サンカットへのごみ管理改善の展開は既にスタートし、全体的に改善されつつある。
- ・ ほとんどの住民はごみ出しルールを守っているが 100%ではなく、これからも住民への教育・啓発を継続する。
- ・ サンカット、住民、シントリ社が協力して取り組んでおり、この3者の協力を誇りに思う。
- ・ 住民が理解するためには時間を要するため、あきらめずに継続して教育・啓発をする大切さを理解した。
- ・ プノンペン都の市民はごみ管理の理解度が高まり、衛生的な生活が必要であるとの認識が定着しつつある。
- ・ 朝一番にごみ出ししていたが、ごみ出し時間が守られてきたことで、また、収集時間に間に合わない時は家で保管しているので家の前にはごみがない。
- ・ アンケート調査を通じてごみ管理の認識がさらに高まった。
- ・ ごみはごみ箱に入れる習慣が付いた。
- ・ まだ不十分な点はあるが、一長一短で成しえるものではなく、時間はかかっても継続していくことで改善できる。サンカットの取り組みを自己評価し、課題点を抽出し解決策を考え実行するPDCAを実行していく。
- ・ 日本からのアドバイスに深く感謝する。
- ・ シントリ社のごみ収集パッカー車から汚水が滴り落ちるため、パッカー車が通った後が臭い。

プロジェクトがスタートした当時、ごみ管理の現状に対して各サンカットのサンカット長やフォーカルポイント等から出てくる意見は、ネガティブな事柄しか出ていませんでした。しかし、現在はポジティブな意見がほとんどを占め、ごみ管理改善に対して「やればできる」との自信に満ち溢れているといっても過言ではありません。



4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

一斉清掃の様子-1

- 一斉清掃はサンカット長の陣頭指揮の下、フォーカルポイントもトラベック水路沿い道路を清掃するとともに、住民も家の周りを清掃している。



フォーカルポイントによる清掃



住民による清掃



住民による清掃



住民による清掃



フォーカルポイントによる清掃



水路の不具合対策を協議

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

一斉清掃の様子-2

- 一斉清掃はサンカット長の陣頭指揮の下、フォーカルポイントもトラベック水路沿い道路を清掃するとともに、住民も家の周りを清掃している。



住民にごみの保管について指導



一斉清掃の機会に捨てれず
にいた大量のごみを処分



身近なところで緑を増やす



シントリ社スタッフも協力



小回りの利く自転車カート



シントリ社のスタッフ詰所
(総勢54名)

一斉清掃は 2023 年 3 月 26 日午前 8 時からスタートしました。

各サンカットともにサンカット長やフォーカルポイントが先頭に立ってコミュニティ内を移動し、清掃活動を盛り上げていました。住民も箒と塵取りを持って清掃に参加しています。視察時の印象的な事柄を述べます。

- ・ トウトウトク(三輪タクシー)が路上駐車しており、その下にごみが溜まっていましたがトウトウトクが邪魔で掃除しにくい状態でした。そのため、私は掃除を省略するものと思っておりましたが、住民は身をかがめて手を伸ばし、きれいに掃いていました。
- ・ BT と TTP1 サンカットはトラベック水路を境界として区分けされており、両サンカット長がトラベック水路沿いを歩き水路内を確認していたところ、大きなコンクリート擁壁が水路に落ちていました。これでは水の流れを妨げ洪水の原因にもなりかねません。水路内の浚渫等の整備は区からサンカットに移管されており、両サンカット長がその場でどのように対処するか協議していました。
- ・ 捨てれずにいた大量のごみを家に沿って保管(放置)していましたが、その住民は一斉清掃の機会を利用して黙々と掃除していました。
- ・ ごみの散らかりがなくなった次のステップは緑化です。身近なところで工夫して緑化に取り組んでいます。
- ・ 一斉清掃にもシントリ社スタッフが参加していました。
- ・ シントリ社スタッフの詰所でマネージャーが一人一人に今日の作業指示を出していました。ここでは 54 名のスタッフが働いています。スタッフからは次のような意見が出ました。
 - ✓ 疲れるが大事な仕事
 - ✓ 給料は生活することができるレベル
 - ✓ 日常の清掃業務は大変だが遣り甲斐(やりがい)がある
 - ✓ まち美化に貢献している
 - ✓ トウトウトクの客がペットボトルをポイ捨てしており、何とかならないか
- ・ ごみの保管状況の悪い店には直ぐに注意・指導します。
- ・ 住民から今の状況についての感想を利きました。
 - ✓ 自転車によるパン等の移動販売しているおばさんから、「自転車で大通りから路地まで自転車で移動しているが、ごみの散らかりは確実に少なくなったと実感している。」
 - ✓ 商店主から、「街はきれいになったと実感しており、ごみは必ずごみ箱に入れている。」
 - ✓ 路地に住む主婦から、「シントリ社は狭い路地まで毎日ごみ収集に来てくれる。」
 - ✓ 主婦から、「以前より良くなっているが不十分なところもある。」

私たちは一斉清掃の様子を確認するために、時間も限られていることから BKK3 サンカットだけを重点的に視察することにしました。ところが、当日、他のサンカット長も自分の所も見たいとの要望から、BKK3→BT→TTP1→PDT と順にサンカット長がサンカットの境界まで迎えに来てリレー形式でトラベック水路沿いに沿って視察しました。皆さんも気付いていると思いますが、結果的に BKK2 だけ視察に行けずじまいです。当日に急遽決まったこととはいえ、5 サンカット間に差がついてしまい、BKK2 のサンカット長には本当に悪いことをしてしまいました。

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

トラベック水路沿い道路の状況

道路はきれいな状態が維持されており、ごみが無いことで緑豊かな街へと変貌を遂げている。



「綺麗」が維持されているトラベック水路沿いの道路



水路沿い道路の対岸の路地もきれいで緑豊か

橋に花壇を設置

道路は清掃が行き綺麗です。午前 8 時から 9 時ということもあり、シントリ社のごみ収集が終わった後、すなわち夜間にごみ撤去されリセットされた状態だといえます。また、日曜日ということもあり、自動車の駐車も見かけないのですっきりとしています。

トラベック水路道路の対岸の路地を見てみると、ここも同様に清掃が行き渡り、住民は緑化に励んでいます。そして、ごみが放置されやすい橋沿いのスペースを試験的に花壇にしましたが、それもきれいな状態で維持されています。乾期でもあり雨が降っていませんが綺麗に花が咲いています。定期的な水やりしていることでしょう。



4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

サンカット内の道路の状況-1

道路はきれいな状態が維持されており、ごみが無いことで緑豊かな街へと変貌を遂げている。



「綺麗」が維持されているサンカット内の道路



「綺麗」が維持されているサンカット内の道路

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

サンカット内の道路の状況-2

道路(路地)はきれいな状態が維持されており、ごみが無いことで緑豊かな街へと変貌を遂げている。



「綺麗」が維持されているトラベック水路沿いの道路



エッチャイモルールを守り
ごみはごみ箱へ



「綺麗」が維持されているサンカット内の道路(路地)

次にサンカット内の道路に注目してみます。

これらの道路も主要道路と同様に綺麗さが維持されています。特に PDT の不法住居一帯は田舎から移住してきた住民であり、住み暮らしていた田舎の習慣で物事を考え行動します。そのため、統制のとれた取り組みが困難であり、長期間の継続的な住民への教育・啓発の結果が、今のごみ管理と地域の綺麗さに結び付いたのだと思います。また、サンカットの部外者であるエッチャイにも個別に、ごみ管理を守る、例えばごみは散らかさずに、ごみはごみ箱に入れるなどの教育・啓発もなされています。

ごみの散乱がなくなったことで街はどのように変わったでしょうか。

場所は異なりますが、極端な例を示します。下記の左はごみ管理改善の Before、右は After です。皆さんはどのような印象を持たれますか。



Before



After

Before は「ごみの散乱」「不衛生」「悪臭」「汚い」「近寄りたくない」「ウアーッ」などのネガティブなことしか思い浮かびません。それに対して After は如何ですか。「ごみが無い」「きれい」「清潔」「緑豊か」「観光地?」「いいね!」などのポジティブな言葉が出てきませんか。

Before の写真も樹木がしっかりと移り込んでいますが、どうしても「ごみ」に目が向いてしまいます。実際に私たちもサンカット内の現場調査をするとき、ごみに目が向いたり、ごみを踏まないように足元に目が向いたりするので、「汚いな」との印象でしかありませんでした。しかし、After のようにごみが無いだけで全く印象が異なります。歩く時の視線が自然と上がります。

カンボジアは熱帯地域なので樹木の成長も早く、地域・場所によってはごみ管理にしっかりと取り組むだけで緑豊かな地域・場所に変貌することも可能だと思います。

ごみ管理にしっかりと取り組み
街中からごみを一掃



4. 廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

トラベック水路の状況

3月は乾期であり、水路の水量は少なく流れは滞留する傾向にある。また、揚水ポンプは1台稼働することもある。また、揚水ポンプは1台稼働することもある。



基本的に水路へのポイ捨ては少ないが、流れが停滞するとごみが目立つ(特に乾期)



水路下流のPDTは乾期であってもごみ量は少ない
(写真左:上流側・右:ポンプ場側)

底泥からメタンガス発生

水路に目を向けてみます。

乾期ということもあり雨水の水路への流れ込みはほとんどなく、家庭等からの雑排水だけになります。そのため、ほとんど流れがなく停滞しています。水路の排水を湖にポンプアップする下流のポンプ場にも行きましたが、11 台の揚水ポンプは全て停止していました。係員に聞いたところ、必要に応じてポンプを稼働させますが1台だけのようです。

水路にはポイ捨てされたペットボトルや発泡スチロール容器などの浮遊ごみが滞留しており、決して綺麗な状態ではありません。水路の流れがほとんどなく、浮遊ごみが流れていかないことを勘案すると致し方ない状態であるといえます。そして、水路の流れがゆっくりであったとしても、最終的に浮遊ごみ流れ着く最下流の PDT から水路の状態を確認しました。ここの浮遊ごみ量は非常に少なく、水路にポイ捨てされるごみの量は確実に少なくなり、その状態が維持されていると判断することができます。しかし、間違いなくごみのポイ捨てがなされており、今後の課題として残ります。

また、水路内をよく観察すると小さな泡が塊となって湧き上がっています。それこそ、「ボコボコ ボコッ」という感じです。この泡はなんだと思われますか。そうです、メタンガスが発生しているのです。水路のいたるところでこのような現象が起きています。第1章でも述べましたが、トラベック水路の「水路」は名ばかりであり、開渠型の下水道です。そのため、大量の有機汚濁物質が流れ込み、有機質の底泥として堆積するのでメタンガスが発生してしまいます。以前のように生ごみを含んだごみを水路に投棄することが無くなったので、その分のメタンガス発生量は少なくなりましたが、根本的な対策としては下水道の整備と定期的な底泥の浚渫が望まれます。

プノンペン都

コミュニティベースでの廃棄物管理改善

～ Boeung Trabek水路の取り組み事例 ～

第V章 草の根プロジェクト事業の定着化

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

4-1ごみ管理改善イベント(一斉清掃)の実施

4-2副知事の廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメント

高倉弘二 工学博士,技術士(衛生工学・環境)

北九州国際技術協力協会

高倉環境研究所

4-2.副知事の廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメント (2023年3月)


廃棄物管理は行政の責務であり,その成功へ向け行政の強いリーダーシップを発揮することが必要です。そして,行政のトップコミットメントとして,「廃棄物管理改善は何としてでもやり遂げる。」ことを明確に意思表示することが望まれます。というよりも,私はトップコミットメントの有無が廃棄物管理改善を成功に導くための必須要件であると考えています。

そのため,最後の締めくくりは,何といてもプノンペン都廃棄物管理の最高責任者である副知事が,廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメントを内外に宣言することです。そのために,締めくくりとして「引継ぎセレモニー」を実施することにしました。

この引継ぎセレモニーをカウンターに提案するに当たって,とてもうれしく思ったことがありました。私たちはプロジェクトの締めくくりと考え,その題名として「Final Ceremony」の文言を入れることを考えました。それに対しカウンターパートからは,「プノンペン都はごみ管理改善を今後も継続するので,Finalは使いたくない。また,参加者は今後の都の方針を知り,ごみ管理改善を周知することになるのでCeremonyではなく,Workshopにしたい」という提案が出ました。そうです,カウンセラーの“プロジェクトを引き継ぎプノンペン都全体のごみ管理改善を完遂する”との意志の表れです。

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善の引継ぎワークショップ：2023年3月27日

 目的 プノンペン都廃棄物管理の最高責任者である副知事が、廃棄物管理改善定着へ向けたコミットメントを内外に宣言すること。

- ・参加者：
 プノンペン都：カウンターパート、全ての区(14区)、全てのサンカット(105サンカット)、全てのごみ収集運搬会社(3社)
 北九州市プロジェクトメンバー 他 計165名
- ・プロジェクト活動内容(総括)の発表 (プノンペン都)
- ・アクションプラン2の発表 (北九州市)
- ・北九州市からカウンターパートへ感謝状贈呈
- ・プノンペン都から北九州市(組織・個人)へ感謝状贈呈
- ・ごみゼロの歌合唱
- ・副知事によるごみ管理改善定着へ向けたコミットメント

ワークショップの概要は以下の通りです。

- ・参加者：副知事、環境局長、廃棄物管理局長、教育青年スポーツ局長、廃棄物管理公社総裁、埋立処分場長、他関係局関係者、14区(プノンペン都全ての区)代表者、105サンカット(プノンペン都全てのサンカット)代表者、ごみ収集運搬会社3社(プノンペン都全ての収集運搬会社)代表者、北九州市プロジェクトメンバー
- ・プロジェクト活動内容(総括)の発表(プノンペン都)
 - 埋立処分場の改善と現状
 - PDT サンカットにおけるごみ管理改善の取り組み事例
- ・アクションプラン2の発表(北九州市)
- ・北九州市からプノンペン都関係者(組織)へ感謝状贈呈
対象：副知事、環境局、廃棄物管理局、教育青年スポーツ局、廃棄物管理公社、埋立処分場、カムチャーモン区、ボンケンコン区、BKK2 サンカット、BKK3 サンカット、BT サンカット、TTP1 サンカット、PDT サンカット
- ・プノンペン都から北九州市(組織・個人)へ感謝状贈呈
- ・ごみゼロの歌合唱
- ・副知事によるごみ管理改善定着へ向けたコミットメント

ここで特徴的な「北九州市からプノンペン都関係者(組織)へ感謝状贈呈」「ごみゼロの歌合唱」「副知事によるごみ管理改善定着へ向けたコミットメント」について説明したいと思います。

① 感謝状贈呈について

みなさんは、「北九州市がプノンペン都のごみ管理改善に貢献した訳だから、感謝状はプノンペン都から北九州市に出すものではないのか」と疑問に思われたかもしれません。実際に実施団体のメンバーからは、「逆だ。我々がプノンペン都から感謝状をもらうことが筋だ」と言われました。この誤解を解くために、私たちから感謝状を贈呈する背景等について述べます。

『感謝状贈呈の背景:』

プノンペン都は著しい経済成長とそれにとまなう都市部への人口流入により、ごみ発生量が増大したために現状のごみ管理体制では対応できず、都市部でのごみの滞留・散乱と不法投棄が常態化し、ごみ管理改善が喫緊の課題となっていました。2016年3月、北九州市はプノンペン都の姉妹都市提携を機に、プノンペン都から課題解決支援の要請を受け、北九州市の持つ環境技術・ノウハウを活用したプノンペン都のごみ管理体制の整備に係る支援を行うことにしました。そこで、JICA 草の根技術協力事業「プノンペン都廃棄物管理改善事業」として提案・採択され、2019年1月に5つのサンカットが係わるトラベック水路周辺のモデル地域とダンコール埋立処分場を対象とするごみ管理改善プロジェクトがスタートしました。

当プロジェクトを遂行するに当たり、北九州市とプノンペン都両者の積極的なコミュニケーションと協働がなされたことで、行政・住民・ごみ収集運搬会社が満足することができるごみ管理改善と処分場の管理運営を手に行うことができました。すなわち、プノンペン都はごみ管理改善を手に入れ、北九州市はごみ管理改善事業の成功と姉妹都市関係を強固なものとしており、Win-Winの関係が構築されたこととなります。さらには、プノンペン都の社会全体が衛生的な綺麗な都市へと変貌するための行動変容が生じていることを考えると、北九州市-プノンペン都-社会の「三方良し」が構築されたと言えます。

『感謝状贈呈の理由:』

当プロジェクトに係わるステークホルダー組織が、それぞれの役割を滞りなく実行したこと、そして、自立的・自律的に役割を担ったことにより「三方良し」が構築されたことから、それぞれの組織の労苦や貢献に謝意を示すために感謝状を贈呈することにしました。

② ごみゼロの歌合唱

私の方で「みんなで力を合わせ、プノンペンからごみを無くす(ゼロにする)歌」を作詞したので、全員で日本語とクメール語で順に合唱し、ごみ管理改善に向かっての全員の意識を統一します。

③ 副知事によるごみ管理改善定着へ向けたコミットメント

アクションプラン2の説明がなされた後、副知事はこれを受け取り、ごみ管理改善をプノンペン都全域に展開することをコミットメントします。このとき、プノンペン都関係者だけでなく、プノンペン都全ての区・サンカット・ごみ収集運搬会社が参加していることで、全ての関係者が副知事のコミットメントが周知・理解され、このセレモニーが正式なごみ管理改善展開のスタートの場となります。

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善の引継ぎワークショップの様子-1

- 副知事によるプロジェクトの概要と成果、並びにごみ管理改善継続の重要性が説明された後、北九州市環境局長からプロジェクトへの謝辞が述べられた。



ブノンペン都副知事挨拶



北九州市環境局長謝辞



セレモニーの様子

- 処分場及びPDTサンカットの取り組み事例及びアクションプラン2が報告された。



処分場の現状説明



PDTサンカットの取り組み事例報告



アクションプラン2の報告

今後、ブノンペン都を挙げて継続的にごみ管理改善に取り組むために知っておいて欲しい「埋立処分場の改善と現状」「サンカットにおけるごみ管理改善の取り組み事例」について発表がなされました。そして、それに引き続き「アクションプラン2」の概要説明をしました。

ブノンペン都ではごみ管理に係わる政令が公布され、ごみ収集運搬会社が3社体制となり、既にごみ管理改善の取り組みはスタートしています。しかし、プロジェクトに参加していない残りの12区と100サンカットは、その全体像とサンカットで取り組む具体的な事例を知る機会が少なかつたため、ワークショップを通じて情報提供・共有を行ないました。

処分場の説明はブノンペン都職員の元処分場長が実施しました。彼は留学経験も含め、様々な経験を持っているので落ち着いた雰囲気ですムズな発表でした。

サンカットの取り組み事例の報告はPDTのサンカット長が実施しました。彼は非常に緊張した面持ちで原稿を確認しながらの発表でした。彼にとっての発表の場は荣誉であり失敗は許されないと考えていたのでしょう。そのため、事前に練習していたようです。その練習の場は私たちが一斉清掃時にPDTを訪れたときに、1か所に留まって20~30分間サンカットの状況説明をしていました。通訳が言うには、「まるで発表の練習をしている」でした。私はこれを聞き微笑ましく思いました。

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

ごみ管理改善の引継ぎワークショップの様子-2

- 北九州市からカウンターパートへ感謝状贈呈



北九州市からカウンターパートへ感謝状贈呈

- そして、プノンペン都から北九州市チームへ感謝状贈呈



プノンペン都から北九州市チームへ感謝状贈呈

お互いに活動を讃え合う

4.廃棄物管理改善の定着に向けたコミットメント

プノンペン都副知事の宣言

「アクションプラン2をプノンペン都のごみ管理改善フェイズ2として引継ぎ、さらにフェイズ3へ発展することを責任を持って約束をする」



次に、北九州市からカウンターパートへ、そして、プノンペン都から北九州市へ感謝状の贈呈が行われました。お互いがお互いを讃え合うことになりました。

北九州市がプロジェクトを通じてごみ管理改善に係わる様々なノウハウ、仕組みをカウンターパートに提供するすると同時に、カウンターパートと一緒に、協働してそのノウハウ等を現地に適した形、現地に馴染む形にモディファイしながら活動してきました。その結果がここに至っているのです。

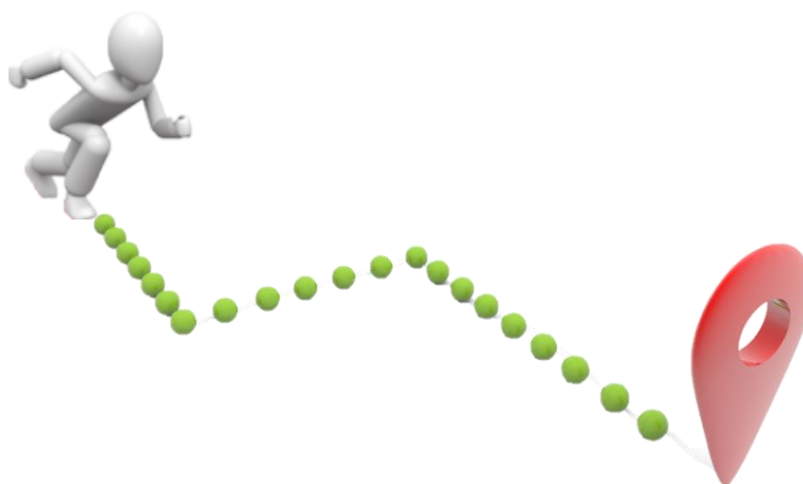
最後に、プノンペン都副知事からごみ管理改善の継続について宣言されました。

『アクションプラン 2 をプノンペン都のごみ管理改善フェイズ 2 として引継ぎ、さらにフェイズ 3 へ発展することを責任を持って約束をする』

この言葉を得るために2019年1月にプロジェクトがスタートしたと言っても過言ではありません。

そして、ワークショップ終了後に昼食会に招待され私は副知事がいらっしゃるテーブルに座り、プロジェクトのことを振り返り、また、雑談も交えて楽しく食事をいただきました。他のテーブルでは北九州市の課長がカウンターパートの廃棄物管理局長と同じテーブルで食事を取っていたのですが、その席で廃棄物管理局長から今後の要望が北九州市に出されました。「今後も引き続き支援をお願いしたい」「ただし、ごみ管理改善についてはアクションプラン 2 があり自分たちで実施できるので、それ以外の分野を考えている」私はこれを聞いてとてもうれしく思いました。ごみ管理改善の実務を担当する責任者から、「アクションプラン 2 を自分たちで実施する」との発言は、ごみ管理改善が地域に定着し継続的に実施されることを意味するからです。

すなわち、プロジェクト目標 (Project Purpose) である「プノンペン都の廃棄物管理体制が整備される」が達成されただけでなく、その上位目標 (Overall Goal) である「適正な廃棄物管理システムモデルが普及する」を達成することができる道筋が明確に示され、それが実現されつつあることを示しています。



コラム 23:ごみゼロのうた

引継ぎセレモニーの場で全員で合唱する「ごみゼロのうた」を紹介します。メロディーはキャンプソングの定番とも言える「山賊の歌」です。YouTube 等で検索すればすぐにヒットしますのでみなさんも歌ってみてください。

歌い方は、先ずは、私が歌う日本語の歌詞とメロディーの後に同じように歌うことを繰り返します。この様子を言葉で描写します。

「さあ皆さん。最後の締めくくり全員でごみゼロの歌を歌いましょう。」

「簡単な日本語とクメール語のフレーズとメロディーなので大丈夫です。歌えます。」

「私が歌った後に同じように歌ってください。まずは練習です。」

私:「わたし」 参加者:「〇たし」 私:「あなた」 参加者:「あな〇」

私:「ちからを」 参加者:「ちからを」 私:「あわせ」 参加者:「あわせ」

.....

私:「すてきな」 参加者:「すてきな」 私:「まちへ」 参加者:「まちへ」

次に私はクメール語で同じように歌います。当然私もクメール語で歌いますが、何とかそれらしく歌えているようです。

私:「クニョム・ヌン・ニア」 参加者:「クニョム・ヌン・ニア」 私:「ユン・ルーム・クニア」 参加者:「ユン・ルーム・クニア」

私:「チア・ティ・クロン」 参加者:「チア・ティ・クロン」 私:「スロツ・ボム・プロン」 参加者:「スロツ・ボム・プロン」

クニョム・ヌン・ニア	ユン・ルーム・クニア	Wa ta shi A na ta
ខ្ញុំ និង អ្នក	យើងរួមគ្នា	わたし あなた
サ・ハ・カ・ラン	ダム・ベイ・オイ	Chi ka ra A wa se
សហការណ៍ឡើង	ដើម្បីឲ្យ	ちからを あわせ
ブノム・ソム・ラム	バット・ループ・リアン	Go mi no Ya ma wo
ភ្នំសំរាម	បាត់រូបរាង	ごみの やまを
ロップ・ボム・バット	ブノム・ソム・ラム	Na ku shit e mi se ru
លុបបំបាត់	ភ្នំសំរាម	なくして みせる
トツ・ユン	コム・ブルン・ラン	Ya rou Yarou ze
តោះយើង	ខំប្រឹងឡើង	やろう やろうぜ
サ・ハ・カ・クニア	ダム・ベイ・オイ	Chi ka ra wo A wa se
សហការណ៍គ្នា	ដើម្បីឲ្យ	ちからを あわせ
ティ・クロン・ユン	ブドー・ループ・リアン	Ka e ru Ka e ru zo
ទីក្រុងយើង	ប្តូររូបរាង	かえる かえるぞ
チア・ティ・クロン	スロツ・ボム・プロン	Su te ki na Ma chi e
ជាទីក្រុង	ស្រស់បំព្រង!	すてきな まちへ